

## ★9/29（月）第1回『S.P.A.R.K. for our well-being!』講演会★

『桐商 SPARK! ～自ら考え、判断し、行動するために、  
知っておきたい非認知能力と Agency～』

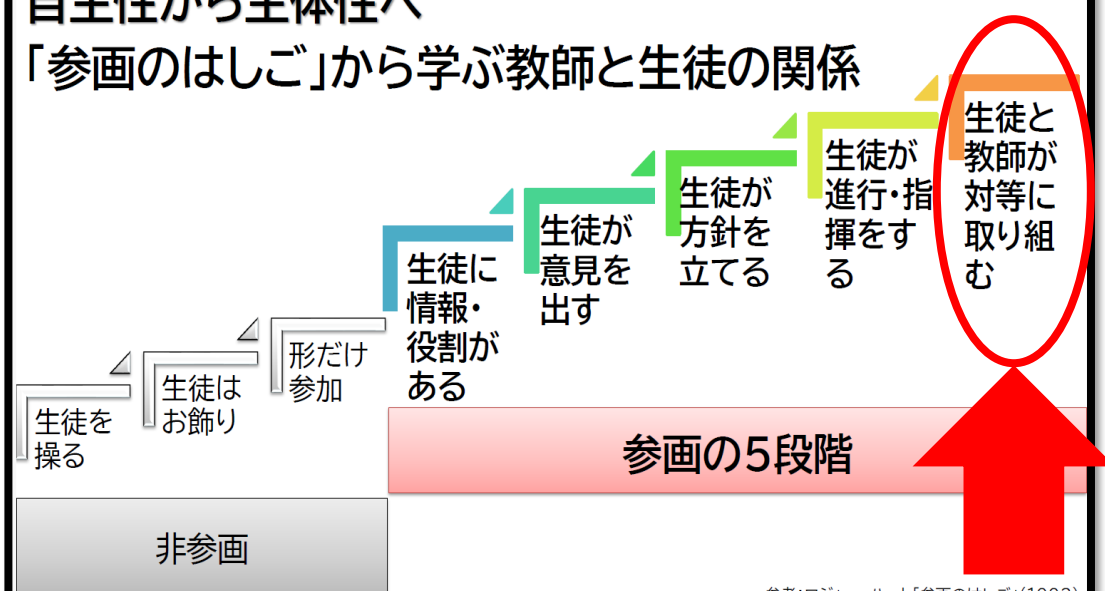


写真提供:『みんなの学校新聞』さま

SPARK 講演会の挨拶でもお話ししましたが、この講演会の企画は私が桐商に赴任する前から中山芳一先生にオファーしていたものです。私にとってはこの半年の間に、中山先生のお話が生徒に浸透する下地をつくるミッションがありました！それが『S.P.A.R.K. for our well-being!』ということになります！

中山先生が講演のなかで『ロジャー・ハートの参画のはしご（下図）』を説明されたときに『**教師と生徒が対等な関係で取り組むこと**』を目指してほしいとおっしゃっていましたが、私は前任校では『**達成できた!**』と感じています！それは『**教職員と生徒が対等な立場で、自分のいる場所を最高の場所にするために、意見を出し合い、互いのウェルビーイングを尊重しながら協力しあう!**』ということです！前任校で私は全校生徒に向かって『**生徒を「同僚」だと思っている!**』とよく伝えました！そんな関係に桐商生がなってくれることを信じています！そのためには、中山先生のスライドをもう一度見直し、中山先生が伝えなかったメッセージを何度も何度も確認し、自分自身に浸透させてほしいと思います！後半に、生徒の感想文をつけました！桐商生の理解力に驚かされました！校長 星野 亨

### 自主性から主体性へ 「参画のはしご」から学ぶ教師と生徒の関係





もちろん、教職員の私たちにも『意識改革』が必要です！生徒と教師は『上下関係・主従関係』ではありません！スポーツの世界でも、もはや『コーチは指導者というよりは伴走者・支援者』という考え方が浸透してきています！『coach』の語源は『馬車』です！馬車が人を目的地まで運ぶように、『生徒を学問やスポーツの目的地へ運ぶ人』という発想の転換が必要です！生徒の意見にも耳を傾けることも必要です！

『生徒から教わること』も大いにあると思います！そんな時には正直に『すごい！』と言ってあげてほしいと思います！現在の本校の生徒会の状況は『参画のはしご』のどの段階でしょうか？あなたのクラスはどうでしょうか？部活動はいかがでしょうか？**もちろん、生徒にも『主体性』と『責任感』が必要です！**

そこで SPARK 講演会の運営を生徒たちに任せました。その場所ごとに『考えて、判断して、行動』してもらいました！こういった経験を通し、『意見や方針を出す！』ことにも繋がると信じます！

質問も止まらなかったですね（笑）！『自分事』としてとらえ、理解したいと思えば質問は出てきます！良い傾向です！外部の教育関係者や企業の方々が57名も参加していただきましたが、桐商生の積極性に驚いていましたよ！保護者の方々からもたくさんの反響がありました！引き続き、『桐商 SPARK！』でお願いします！生徒のみなさん、中山先生に伝えていただいたことを実生活で『実践』してくださいね！

生徒が運営する SPARK 講演会！





生徒の感想文その1(それぞれ一部抜粋！)・・・中山芳一先生のお話は、桐商生の『心』に深く深く刻まれております！

私は「失敗」を恐れて新しい挑戦を避けがちだけれど この講演会を機に積極的に新しい挑戦をしていこうと思います。「失敗」をしてしまってもほめたり、振り返ることで大きく成長できるのだと気づきました。 1-1 中嶋 笑花

今までの自分は勉強が大事だと思っていたけれど今日話を聞いて失敗してもくじけない心や人と仲良くする力も将来につながるんだと分かりました。特に非認知能力はすぐに数字に出るわけではないけれど、毎日の生活や行動の中で少しずつ身につけられると聞いて普段の自分の過ごし方を見直そうと思いました。 1-1 山崎 真子

中山先生の話で印象に残ったのは、非認知能力は『テストでは測れない力』であり、自分で考えて行動したり、人の気持ちを理解したり、あきらめずに挑戦を続けたりする力のことだということです。これからはただ正解を求めるだけでなく、色々な意見に耳を傾けながら、自分の考えをしっかりと持てるようになりたいです。 1-2 小林 百々愛

特に印象に残ったのは『非認知能力は、認知能力と違って共通の満点という決まったゴールがない』ということです。『自分と向き合う力』も『自分を高める力』も『他者とつながる力』もプラスとマイナスどちらもあり、どれが一番良いということもないので、どの力も大切にすることが大切だと知れました。 1-3 市川 未琉

今回の講演を通して『挑戦する中でしか得られない成長がある』ということを改めて実感しました。このタイミングで中山先生の講演を聞いたことは、今の自分にとって大きな意味があり、確実に成長のきっかけになったと思います。これからは『どう思われるか』ではなく、『自分がどう成長したいか』を軸にして、少しずつでも挑戦する姿勢を大切にしていきたいと思いました。 1-4 近藤 愛翔

この講演会の後にもっと知りたくなったので調べてみたら、幼少期の教育環境が影響していたり、現代では非認知能力が重要視されていたりすることも分かりました。このことを通して、価値基準を持って自分の意思で判断・決断をより心がけていこうと感じました。 1-5 神谷 美香

唯一生き残れるのは『変化できる者』という言葉がありましたが、時代は常に変化していて、それに適応するには変化をする必要があることを学び、自分自身を変えられる人になりたいと思いました。非認知能力は、気質だけでなく、鍛えられるものなので、教わった5つのポイントを意識して生活を送れるようにしたいと思います。 1-6 上原 璃緒

特に印象に残ったのは『フィードフォワード』の大切さです。私は今まで『フィードバック』にしか目を向けておらず、改善点を見つけてそれで終わりという状態になっていました。ですが、改善点を見つけてその上でその改善点を具体的にどう活かすのか、何をすべきなのかを考えることがいかに重要なかが分かりました。 2-1 茂木 愛寿

AI は人間の仕事を奪う存在ではなくパートナーとして共により良い未来をつくるものだという考え方にも共感しました。変化が激しく、不確かな VUCA 時代を不安に思うのではなく、その波に乗れる自分になる努力が大切だと感じました。 2-2 石原 陽香

先生の『夢は小さくなくていい』という言葉聞いて、他のことにも置き換えて考えてみたら、色々なことを重く捉えすぎていたのかもと思い、すごく気持ちが楽になりました。 2-2 石原 舞

高2 になって進路について真剣に悩む時期でしたが、ただ単に自分のやりたいことを探すだけでなく、人のために自分ができることや挑戦してみたいことなど、様々な視点から選択肢を広げてみようと思いました。 2-2 中嶋 舞桜

生徒の感想文その2(それぞれ一部抜粋！)・・・中山芳一先生のお話は、桐商生の『心』に深く深く刻まれております！

特に印象に残った話は、『自主性』と『主体性』の違いと非認知能力の鍛え方です。自主性も主体性も自分が主人公だという共通点がありますが、枠組みの中で行うか、枠を壊し責任を負って行うか、というとても大きな違いがあるのだと分かりました。

2-3 菅野 悠人

『自分と向き合う力』『自分を高める力』『他者とつながる力』という3つの力の中で、私はすぐに自分の一番強みとしている力が選べなかったのが、少しずつ何か1つだけでも良いから、自分の強みとする力を身につけ、その力を伸ばしていきたいと思いました。

2-3 周東 鈴佳

今回の講演を通し『自ら考え、判断し、行動する力』の大切さを改めて知ることができました。特に印象に残ったのはAIがどれだけ発展しても人間にしかできない力があるという話です。知識だけではなく自分で考えて工夫したり、人との関わり合いの中で学んだりすることがこれからの時代にますます必要になると感じました。

2-4 八木橋 優乃

非認知能力も鍛えられることを知り、自分自身の可能性が広がった気がしました。特に自分にとって鍛えることが必要な部分は、『自分で考えること』だと思いました。自分は決め事が苦手で相手に合わせがちなので、しっかりと自分なりの意見や根拠が持てるようになると良いと思いました。

2-4 鷲田 百花

自分は司会で、ホールで講演を聞くことができませんでしたが、舞台袖で講演を聞き、中山先生の思いの強さや、自分たちに伝えたい思いというのが中山先生の体からあふれ出ていて、ホールでは味わえない体験を味わうことができました。また、中山先生の講師紹介をさせていただき、光栄でした。

2-5 中島 鍊夢

『人生は決まった正解がなく、チャンスはどこにでもあるので何度も間違っても良い』という言葉がすごく心に残りました。今までは失敗を恐れていたけど、少し軽く考えることも良いなと思いました。そして『自分で失敗をほめる』という言葉に共感しました。『失敗をほめる』と聞いて、最初は疑問に思ったけど、まずはやってみて失敗してその失敗を振り返ることが大切と共感しました。

2-5 木村 佳夢

『Agency』という言葉は初めてしっかりと学び、自分の人生を自分で決めてゆく主体性のことだと理解しました。自分勝手に行動するのではなく、周りとの関わり合いを考えながら選択していく姿勢だという説明が印象に残りました。

2-6 阿彦 瞳実

私は今回の講演を聞いて自分に自信を持てるようになりました。まず、忍耐力や向上心の持ち方、他者と関わる力は生まれ持ったある種の才能なのだとばかり考えていました。しかし、これらの力は『非認知能力(心)』で、満点など存在しないもので、自分の発揮しやすい力を探して発揮するものだとして学び、少し自分の自信になったような気がします。

2-6 米川 結衣

中山先生の話聞いていて特に印象的だったのは、『何をするか』を自分で決めることの大切さが印象的でした。自分で決めることでも決め方の種類があり、一人で決めなくても周りに相談して自分で納得して決める。その決めたことをやっている最中に失敗してしまっても、途中で放棄したりせず最後までやり切ることが大切で、自分のためになるんだと改めて思いました。そして何かをやるのは、例え誰かのためにやっても、まわりまわって自分のためになる。このことにすごく感動しました。

3-1 津久井 流大



生徒の感想文その3(それぞれ一部抜粋！)・・・中山芳一先生のお話は、桐商生の『心』に深く深く刻まれております！

今年度に入ってから校長先生の非認知能力の話や、スパークの話を聞いていて少しは分かっているつもりでいたけれど、今日の中山先生の話聞いて、より深く理解することができた。中山先生の講演は 1 人で考えながら聞くのではなく、周りの人たちと話し合える時間があるからとても楽しく学ぶことができて、ただ聞いているよりも身につけられたと思う。生きていく上でとても大切なことを学びました。

3-2 神澤 美吹

認知能力が高く、情報処理が得意な AI に頼れるところは力を貸してもらい、感情を持っている人間は他人と会話をして、共感し合うという人間にしかできないことをして、助け合っていくという世の中になっていったら、互いに成長していけるのではないかと思います。自分のためにやっていることが見方を変えたら、他人のためになっていることもあると改めて考えることができたので、これから生きていく中で、他人のためにたくさんのことをして、経験を積み、自分の成長にもつなげていきたいと心から思いました。

3-2 速水 栞奈

私は今回の中山先生の講演会を聞き、あらためて『自分で考えて、行動すること』の大切さを学ぶことができました。今までの私が持っていた考えだと『仕事』とは、『お金を稼ぐこと』『自分のためにやること』と考えていました。ですが、『傍（はた）』『楽（らく）』という考えを聞いて、今まで持っていた考えが、がらりと変わりました。用紙に書ききれないくらいの学びをありがとうございました。

3-3 小川 らん

最初に『押しについて 1 分で話す』という活動があり、みんなが寝ないようにする工夫だと気づきました。特に印象に残ったのは『大きい会場で話すときは寝ている人をターゲットにする』という言葉です。普通は、反応が良い人を見るのに逆の発想で、自分の話で人を起こせるかをモチベーションにしているところがすごいと思いました。また、『忍耐力や自尊心など、どれが高くても他人にどう思われるかで問題になることがある』という話にも共感しました。自分の経験と重なり、これからは相手の受け取り方も意識しながら、他人に合わせすぎず、自分の価値観も大事にしていきたいと思います。

3-4 清水 咲花

AI の発達で、人間はこの先 AI に頼りっぱなしになっていくのかなと思っていたけれど、この『非認知能力が人間が AI に勝る部分なのだ』と気づかされました。だから、私たち人間はこれから非認知能力の分野を高め、AI に頼りっぱなしにするのではなく、AI と共存していき、豊かな未来を築くことが大切なのだと思います。

3-5 永井 星空

今回の講演を通して、非認知能力の大切さについて深く考えることができました。学校生活ではどうしても『見える力』に目が向きがちですが、それ以上に『自ら考え、判断し、行動する力』が生きていく上で大切だということを知りました。

3-6 皆川 楓花

今回の講話を通して、これまでの『勉強＝成績』という一面的な考えから一歩踏み出し、自分の中の非認知能力を育てていく大切さに気づくことができました。これからは変化を楽しみ、さまざまな経験から学び続けることで、自分らしい成長を目指していきたいと思います。

3-6 町田 紗羅

非認知能力は、数値では表すことのできない、基準や正解のないものだということを知り、私は少し心が楽になりました。自分の価値を他人からの評価ではなく、自分で決められる自分の価値基準を持って、幸せで、良い気持ちで生きられるように、座右の銘を心の内にとどめ、大切にし、自分を守りたいと思いました。

3-6 権田 悠奈

当日、参加された保護者、および教育関係者、企業の方々よりいただいた感想より(匿名扱いとさせていただきます！)

今なぜ非認知能力が注目されるのか、なぜ必要なのか…。学力テストなどでは測れない「生きる力」の土台こそが非認知能力なのかなと思いました。非認知能力を知れた桐商（全日制、定時制）の生徒さんたちがますます輝くことを願います！貴重なお時間を作っていただき本当にありがとうございました。

本校全日制保護者より

昨日は桐商 S.P.A.R.K 大変お世話になりました。非常によい雰囲気の中で生徒と中山先生のキャッチボールを楽しく観させていただきました。なかでも定時制の生徒とのやり取りは大変印象的でした。こうした機会に参加させていただきありがとうございました。(外部からの参加者のなかに)面識ある方もいらっしゃいましたが、面識のない桐生市の義務教育の先生も来ていただいているとうかがったので、ちょっと気になっていました。拝見しますと、地元企業の方に桐商の取組を知ってもらうよい機会にもなっていることがよく分かりました。こうした外部への出席依頼などは大変だったことと思いますが、その分よいものを見ていただけたものと思いました。講演前よりも終わった後の方が生徒達の表情がずっとよくなっていたこともさすが中山先生だなと思うとともに、こうした生徒を増やしたいと思いました。

県内教育機関の方より

最初の星野校長先生が『こんにちは』と挨拶をしたところ、生徒が、特に女子生徒が、元気よく『こんにちは』と返してくれたことに正直驚きました。それに対して、星野校長先生が『気持ちが良い挨拶を返してくれて嬉しい』とおっしゃった言葉が印象的でした。講演が始まり、中山先生の挨拶に対しても気持ちが良い挨拶をしており、改めて挨拶が重要なことを再認識いたしました。

今回の講演が過去一有意義と感じたことは、講演が終わり、振り返ることで分かったのですが、中山先生の講演は『授業』そのものだ気がつきました。それは一方通行の授業ではないからです。中山先生がおっしゃっていた『生徒との対等な関係を築き上げること』が重要だと感じました。

講演の中で印象に残ったことは『推しの話を1分間ジャストで伝える』。これを友達に伝えるといった内容でした。初めに就職活動や大学受験などで重要なこととして付け加えることで真剣になり、うまくいってもいなくてもよくて、繰り返してトレーニングすることで、面接や将来の仕事に役に立つことと理解しました。

私は学生時代勉強が嫌いで、授業も寝ているような生徒でした。今振り返ると、授業も退屈で何のために勉強しているかもわからないし、将来何をしたいかも定まっておりませんでした。これは部活でも同じことが言えます。目的が不明な練習をやらされる。水を飲むな、ミスをしたら罰を受ける、理不尽な指導を受けるなどありました。当時は仲間とそのことに対して意見を出し合い、自ら練習メニューを考え、顧問から与えられたメニューの他に自分たちで考えたメニューを朝練でこなしておりました。顧問や先輩にこのようなことに関して質問もできない雰囲気でした。これは対等な関係ではないからだと思います。このような経験をされているような人が多いとも思われます。もしこの時代に星野校長先生や中山先生に出会っていたら違う人生を歩んでいたことは間違いありません。

企業の方より



講演会終了後に、職員研修も行っていました！中山芳一先生、ありがとうございました！我々は成長します！！！！